

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校番号

115

【小学部】自己評価

学校教育目標	自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。
--------	---

評価する領域・分野	小学部	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標や指導方針の内容への十分な理解と共感を得ている。 ・教職員の児童への愛情や熱意が家庭に伝わっている。 ・ホームページで学習や行事の様子の掲載を続けて理解が深まっている。 ・保護者への積極的な働きかけやコミュニケーションの充実を図っていく。 ・ニーズや目的を明確にし、関りがもてる活動を行っていく。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付ける活動や約束や決まりのある活動を通して、集団生活に必要な力を育てる。 ・学級や学年、部の教師や友達と共に生活する中で、身近な人と関わる力を育てる。 ・いろいろな体の動かし方を身に付け、運動量を増やし、社会生活を送るために必要な力を育てる。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・部会 主任会 学年会 ケース会議 Teams の活用 ・リズムランニング 散歩 「からだ」の時間 昼休みの活用 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・主任会、学年会を中心とした協力、相談の体制づくり ・保護者や関係機関との連携と、個別の指導計画等の適切な活用 ・学習計画、評価、ICT の活用（授業での活用・情報共有） 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケート及び職員アンケート ・児童の様子 ・学年会 ・部会 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・手順やルールについて示してから指導にあたることができた。 ・児童に合わせた意思伝達の方法をさぐり、伝える場を設定した。 ・散歩やリズムランニングに継続して取り組めるような工夫をした。 	
評価の視点	評価	
①基本的な生活習慣を身に付ける活動や決まりのある学習活動を実践することができたか。	A B C D	
②一人一人の「伝える力」を育成する取り組みを行うことができたか。	A B C D	
③いろいろな身体の動かし方を身に付け、運動量を増やすことができたか。	A B C D	
成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返し取り組むことで基本的な学習・生活習慣を身に付けることができた。 ○子どもにあった方法を示し、伝えたいという気持ちを育むことができた。 ○学年、グループに応じて身体を動かす時間や内容を設定して指導ができた。 ▲活動の場所が少なく大型遊具を使った遊びを十分に行うことができなかった。 	A B C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・性教育の観点を入れた生活習慣に関する指導について検討していく。 ・部内で統一したカードやジェスチャーについてまとめる。 ・遊びの場の確保を行い、指導の充実を図る。 	

【中学部】令和7年度 自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。
--------	--

評価する領域・分野	中学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標や教育方針について十分な理解を得ている。 ・生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす工夫をしている。 ・懇談等を通じ、保護者への連絡や意思疎通を積極的に行っている。 ・実態に即した教材・教具の準備等、きめ細かな指導が求められている。 ・将来に向けた地域とつながる活動が期待されている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な知識・技能および態度を、体験を通して育成する。 ・学校や地域の人とともに活動する中で、周りの人と関わる力を育てる。 ・自分の心や体を知り、健康で安全な生活ができる力を育てる。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任、作業班を中心としたチーム体制（主任会） ・各分掌との連携 ・部会、主任会、学年会、教科会、個別懇談
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握、学習課題の明確化、生徒の力が発揮できる授業づくり ・学年会、主任会を中心とした協力・相談体制づくり ・保護者や関係機関との連携と、地域の人と関わる機会の充実 ・個別の指導計画や個別の教育支援計画の適切な活用
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習評価、キャリアパスポート ・連絡帳、個別懇談、学校アンケートでの保護者からの意見や感想
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、類型での教材研究や授業実践の積み上げ ・保護者や教員間での個別の指導計画や個別の教育支援計画の活用 ・関係機関とのサポート会議の実施
評価の視点	評価
① 体験を通して、社会生活に必要な知識・技能および態度を育成することができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
② 周りの人と関わる力を育てる取組を行うことができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
③ 自分の心や体を知り、健康で安全な生活ができる力を育てるための生徒支援や授業実践ができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
成果・課題	
<p>○生徒の一人一人の実態を適切に把握し、課題解決や経験の広がりを意識した授業をすることができた。</p> <p>▲単元が盛り沢山で、行事と重なる時期は生徒も教員も慌ただしくなった。</p> <p>○行事を通じ、学年集団でまとまって活動することができた。</p> <p>▲他者との関わり方（特に休み時間）についての指導・支援について、職員間で共有できていなかった。</p>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・一貫した指導・支援をするため、部内ルールを明確化する。 ・年間指導計画を見直し、単元のスリム化を図る。 ・進路学習の位置付け、職業教育（作業学習）の見直しを図る。

【高等部】令和7年度 自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。 	
評価する領域・分野	高等部	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標や指導方針に対する共感や、一人一人の良さ・可能性を伸ばすための指導・支援についても高い評価を得ている。懇談の実施についても十分であるという意見が多い。今後も学校生活や卒業後の生活について保護者とともに話し合える貴重な時間として大切にしていく。 ・いじめ、体罰に対する項目が「わからない」回答が多い。学校や部としての取組、学校での生徒の様子について、より分かりやすく発信・情報共有に努める。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割に対して、責任をもってやり遂げる力と進んで周囲と協働する力を育成する。 ・自己を理解する力や管理する力を高め、健康な身体と周囲を思いやる豊かな心を育成する。 ・卒業後に社会人として地域と関わり、社会に貢献できるよう、社会生活・職業生活に必要な力を育成する。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・部会や朝礼を活用した部全体での情報共有（報告、連絡、相談の徹底） ・関係分掌による学級・学年・類型へのサポート体制 ・分掌長を含めた主任会 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の系統性ある取組を目指し、活動ごとにねらいや目標を明確にして活動を展開する。 ・卒業後の生活を見据え、様々な活動において実態に応じた役割や責任のある取組を設定するとともに、自身の健康や自分を守るための学習を行う。 ・卒業後の生活を見据えた各種実習、校外学習を行い、校内で学習したことを一般社会の中で実践するとともに、活動後のフィードバックを充実させる。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子や活動ごとの目標達成度（生徒、職員） ・現場実習やインターンシップ等の外部評価及び進路決定状況 ・学校アンケートおよび職員アンケート、保護者からの意見 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・単元や行事ごとの活動グループによる目的や内容の確認。 ・関係分掌と学年（担任）との連携した学習・指導の充実を図った。 ・報告・連絡・相談からの迅速なサポート会議や継続的な話し合いの充実。 ・各種実習（校内作業学習、企業内作業学習、現場実習、インターンシップ） 	
評価の視点	評価	
①役割に責任をもちやり遂げる力と進んで周囲と協働する力を育成できたか。	A (B) C D	
②自己指導能力を高めるとともに、周囲を思いやる豊かな心を育成できたか。	A (B) C D	
③校内外の学習を通して、卒業後の生活に必要な力を育成できたか。	A (B) C D	
成果・課題	総合評価	
<p>○目的を意識することで、より丁寧で分かりやすい授業へと繋がった。学習における関係分掌によるサポート体制が充実した。</p> <p>○時節や部内の状況に応じて必要な情報を共有できた。</p> <p>▲3年間の系統性ある活動計画、教育課程を意識した取組に至っていない。</p>	A (B) C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を充実させるための行事や年間指導計画、作業学習の進め方等の見直しを図る。 ・学校生活におけるルール統一、共有し指導の一体化へ繋げる。 	

【教務部】 令和7年度 自己評価

学校教育目標	自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。
--------	--

評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> ・教務（教育計画、教育課程、年間行事計画、学校説明会等） ・庶務（指導要録、通知表、校内規定集整理等） ・学習指導（個別の指導計画、指導と評価の年間計画、教科会等） ・教育環境（図書管理、教務部用 HP 管理、施錠当番、理科教育施設台帳等）
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・㊷学校の授業内容や進度は、児童生徒の実態に即している。 (⇒よくあてはまる・あてはまる R5…82.0%→R6…80.9%) -1.1pt ・㊸学校の授業には、体験的な活動が取り入れられ、児童生徒は意欲的に取り組んでいる。 (⇒よくあてはまる・あてはまる R5…89.0%→R6…87.0%) -2.0pt ・㊹学校は、児童生徒が社会生活の基礎的・基本的な力を身につけられるような指導をしている。 (⇒よくあてはまる・あてはまる R5…91.0%→R6…90.0%) -1.0pt <p>※学習指導等に関する項目が微減のため、以下重点目標を設定することとした。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 校務支援システム活用を通じた個別の指導計画作成の推進 (2) 児童生徒の学びの拡充を目的とした教育課程の検討 (3) 他分掌との連携によるキャリア教育の更なる推進
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事における他分掌との連携 ・教務部会、教科会
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> (1) 適切な規模を検討した研修会等を通して職員の意識の向上を図る。 (2) 年間を通じた教育課程の検討を行う。 (3) 研修部との連携によるキャリア教育の推進を図る。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各業務における反省と評価 ・キャリアパスポートの活用状況
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムを活用した個別の指導計画（通知表）の作成 ・学校全体を見据えた、合わせた指導等の内容整理 ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進
評価の視点	評価
① 校務支援システムを活用し、よりよい個別の指導計画（通知表）が作成できたか	A (B) C D
② 学校としてより適切な教育課程を具体化することができたか	(A) B C D
③ キャリア教育の更なる推進が図れたか	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○校務支援システムの活用を更に進めることができた。 ○年間の授業時数を見直し、より適切な教育課程の編成ができた。 ○キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進を図ることができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・㊷学校の授業内容や進度は、児童生徒の実態に即している。 (⇒よくあてはまる・あてはまる R6…80.9%→R7…86.2%) +5.3pt ・㊸学校の授業には、体験的な活動が取り入れられ、児童生徒は意欲的に取り組んでいる。 (⇒よくあてはまる・あてはまる R6…87.4%→R7…88.9%) +1.5pt ・㊹学校は、児童生徒が社会生活の基礎的・基本的な力を身につけられるような指導をしている。 (⇒よくあてはまる・あてはまる R6…90.2%→R7…91.3%) +1.1pt 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システム活用を通じた個別の指導計画作成の更なる推進 ・類型を超えた、児童生徒の学びの場の広がり意識した教育課程の編成 ・他分掌との連携によるキャリア教育の更なる推進

【支援センター一部】令和7年度 自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。 	
評価する領域・分野	センター的機能、地域連携、校内支援	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 地域からの依頼に応じ、センター的機能の充実に取り組んでいる。また、特別支援教育やセンター的機能について周知し、活用を促している。 校内の相談に対応し、必要に応じてサポート会議や外部連携へつなげている。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 校内の人的資源を活用した、より継続的、実践的な支援を提供する。 支援経過を確認しながら、提供した支援の有効性について評価し、改善する。 児童生徒や保護者、担任の困りごとに寄り添い、支援が必要なケースを積極的に把握し、早期に対応する。 関係機関との連携を密にして、より迅速に適切な支援につなぐ。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> センター的機能（相談支援、訪問支援、研修支援、情報提供） 地域連携（地域支援会議、福祉事業所対応、個別の教育支援計画、交流及び共同学習） 校内支援（「気にかけてほしい子」の情報共有、サポート会議、外部連携） 	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> センター的機能充実のための地域での情報発信 各学部、各分掌との情報共有、役割分担の確認 積極的な外部連携及び校内サポート会議の実施 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援：関係機関との連携、園や学校等に支援後の様子を確認 校内支援：支援、指導、助言の記録、進捗状況の確認や分掌反省の実施 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> センター的機能についての情報発信や活用の充実 地域の就学や支援に関わる指導・助言 校内における児童生徒の情報収集及びサポート会議・連携会議の実施 	
評価の視点	評価	
①校内の児童生徒や保護者、担任の困りごとに寄り添い、適切な支援ができたか。	○ A B C D	
②センター的機能を通して、地域の園や学校等に対して適切な支援ができたか。	○ A B C D	
③各部、各分掌と連携し、校内外の支援に取り組むことができたか。	A ○ B C D	
成果・課題	総合評価	
<p>○校内のサポート会議から連携会議へと児童生徒の支援の幅を広げ、問題解決や保護者の負担の緩和のための支援を進めることができた。</p> <p>○センター的機能について周知されつつあり、地域の学校（幼稚園、保育園、小中学校、高等学校、私立学校）からの相談、訪問支援の依頼が増えている。相談後の様子について確認をし、再度の訪問や相談につながるケースが増えた。</p> <p>▲個別の教育支援計画の活用について、地域連携の視点をもつことが不十分である。</p>	A ○ B C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画に、関係機関（医療、福祉）の利用状況、そこでの目標や活動を記載できるようにする。 地域支援について、校内の他の分掌の協力を得ながら、可茂特別支援学校の現状や特別支援教育の理解を促す。特に、高等学校からの相談が増えることが予想され、進路指導部と連携しながら進める。 校内外の支援の経過確認や評価の仕方の方法を確立する。 	

【生徒指導部】令和7年度 自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。 	
評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導（各種研修の実施、長期休暇前日より、アルバイト等） ・教育相談（いじめ防止等対策委員会、SC活用、心のアンケート等） ・通学指導（スクールバスに関する業務、自力通学生指導、交通安全教室等） ・特別活動（児童生徒会活動、MSリーダーズ活動、クラブ・部活動等） ・人権教育（いいこと見つけ、人権研修会、ひびきあいの日等） ・学校祭（学校祭企画運営、実行委員会招集） 	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べて、「学校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している」の肯定的な回答が+2.5%、分からないとする回答が-1.5%であった。 ・職員と保護者との連携・情報共有が十分に実施されていることから、保護者の不安解消、問題事案の未然防止、早期発見・対応に繋がっている。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な観察、教育相談、アンケートを実施し保護者と連携して対応する。 ・児童生徒の理解と心のケアに努め、丁寧なアセスメントを行い組織的に対応する。 ・インターネットの利用による犯罪被害の防止及び様々な交通場面における危険について理解するために安全教育の推進を図る。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止等対策検討委員会、ケース会議、生徒指導委員会を組織で対応。 ・職員研修及び生徒向けの研修については、外部機関と連携して実施。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート、人権に関わる授業等を実施 ・いじめ防止等対策委員会、ケース会議等の実施 ・外部講師による情報モラル教育や薬物乱用防止等の研修の実施 ・児童生徒会、MSリーダーズ活動、部活動の運営、学校祭の総括 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の主体的な言動や様子 ・学校評価における、当校の生徒指導上の指導や支援に関する評価 ・いじめ防止等対策検討会議における、当校のいじめ対応等に関する評価 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・些細な事案についても情報共有し、嫌な思いをした事案を組織で対応 ・学校祭での所属意識向上の取り組みの実践 ・生徒の主体的な活動を支える生徒会や挨拶運動等の取り組みの推進 	
評価の視点	評価	
①生徒指導全般において組織で対応し、適切な指導や支援ができたか。	A (B) C D	
②児童生徒が主体的に活動できる環境や活躍の場を確保できたか。	A (B) C D	
③児童生徒の人権意識の向上といじめ重大事案に至らない日々の指導ができたか。	A (B) C D	
成果・課題	総合評価	
○担任からの情報に加え、アンケートの回答や、スクールバス添乗員からの情報等、様々な方面から情報収集を行った。 ○細かな事案でも、情報共有を行い、組織としての対応を行うことができた。 ▲生徒への指導について、教員間で統一ができていなかった。	A (B) C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・校内規定に記載がない事項も含めた指導について、教員間での統一と児童生徒への周知 ・発生事案に対する記録様式の作成と運用 ・学年の核となる教員を中心とした学年組織の明確化 	

【研修部】令和7年度 自己評価

学校教育目標	・自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。
--------	---

評価する領域・分野	研修・研究（資質向上の取組）
現状及びアンケートの結果分析等	・9「保護者との意思疎通」 教員側からの積極的な働きかけやコミュニケーションが求められている。その土台（根拠）となる知識と理解が教員には必要である。 ・24「一人一人に合った教材・教具」 保護者は児童生徒の実態に即したきめ細やかな指導を期待している。専門性を向上させるための研修を行う。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	①自身の業務の中で取り組む重点課題（実践）を蓄積する研究の体制を構築する。 ②研修の在り方を見直し、一人一人の研究テーマに沿った効果的・効率的な研修を計画・立案する。 ③研究や研修を通して、教員同士が対話できる機会を意図的に設定することで、資質の向上につなげる。
重点目標を達成するための校内組織体制	・研究推進委員会 ・初任者研修推進委員会 ・分掌会 ・教務部との連携（校内研修体制の計画） ・地域支援センター一部との連携（外部への情報発信）
目標の達成に必要な具体的取組	・1人1テーマ研究 ・校内自主研修 ・自ら学び続ける教職員だより ・公開授業や公開講座 ・教材・教具展
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・職員アンケートによる職員の達成度等調査
取組状況・実践内容等	・1人1テーマ研究の実施（目標設定の重点化、グループワーク） ・校内自主研修（校内講師による自主研） ・LTAパッケージ研修（興味・関心のある研修の選択、グループワーク） ・自ら学び続ける教職員だより（研修報告、全職員への周知） ・公開授業（9月、11月、1月）地域への情報提供、校内研修 ・公開講座（2回）地域への情報提供 ・教材・教具展（地域への情報提供、教員の資質向上）

評価の視点	評価
①一人一人のキャリアステージやニーズに応じた1人1テーマ研究体制の構築	A B C D
②各自の課題解決及びキャリアステージに基づく各種研修の充実	A B C D
③教員の意識向上に繋げるためのアウトプット、フィードバック、共有の場の設定	A B C D
成果・課題	総合評価
○1人1テーマ研究では、キャリアステージを意識したテーマ設定をすすめることができた。グループワークによる対話で各自のテーマを深め、その実践に繋げていくことができた。 ○LTAパッケージ研修、教材・教具展など自ら学び発信する場を設定できた。 ▲1人1テーマ研究の実践内容の質の向上、研究方法と研修体制の定着、部ごとの意識の差を埋めていくことが課題である。	A B C D
来年度に向けての改善方策案	・引き続き1人1テーマ研究を実施し、自ら学ぶ研究・研修体制を整える。 ・「今さら聞けないシリーズ」等、自ら学びたくなる職員研修を企画する。 ・便りや teams で分かりやすい情報発信、共有の場を設ける。 ・R9年度東知研に向け、1人1テーマ研究を軸とした「子どものやりたいが動き出す授業」に繋がる研究推進を行う。

【ICT 教育推進部】令和7年度 自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。 	
評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> ICT 活用（情報モラル・著作権・研修・学習支援） 情報管理（ネットワーク・PC・タブレット・その他機器） 	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 必要性に応じた内容で今後も研修会を実施していけるとよい。 膨大な量の機器管理になりつつあるが、紛失防止と使用のルール作りをすすめることができるとよい。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器の活用方法を提案し、授業や校務での実践につなげる。 情報機器を安全に使えるように啓発活動を行う。 常に ICT 機器を利用できるように、定期的にメンテナンスや管理を行う。 校務における ICT 活用を推進し、働き方改革を進める。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ICT 教育推進部会 ICT に関する校内連絡会 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ICT 活用、情報セキュリティ啓発のための掲示板設置 児童生徒、教員が安心して活用できるための機器整備 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ICT 教育推進部内での振り返り ICT 機器の使用の様子 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 掲示板や Teams での情報提供をすることができた。 校内の ICT 機器の故障・断線、紛失等のトラブルに対応し、ネットワーク環境改善に取り組むことができた。 	
評価の視点		評価
<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器の活用方法を提案し、授業や校務での実践につなげることができたか。 情報機器を安全に使えるように啓発活動を行うことができたか。 常に ICT 機器を利用できるように、定期的にメンテナンスや管理を行ってきたか。 校務における ICT 活用を推進し、働き方改革を進めることができたか。 		<p>A B <input checked="" type="radio"/> C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>
成果・課題		総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○Teams の ICT 活用チャンネルにより、ICT 活用の推進を行うことができた。 ○ICT 関係の研修会を実施することができた。今後もニーズに合わせた内容で開催できるとよい。 ○年間を通じて視覚支援パネルを活用することができた。 ▲機器管理が膨大な量のため、紛失防止と使用のルール作りが必要となる。 ▲情報モラル教育に関しては生徒指導部と連携し、より推進を図る必要がある。 ▲来年度より高1が学習者用端末利用開始となるため、より教育的効果を意識したタブレット端末の使用法の検証が必要となる。 		A <input checked="" type="radio"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ICT 活用チャンネル等で、ICT 活用の推進を継続して行う。 情報モラル教育について視覚支援パネルや Teams での周知を計画的に行う。 視覚支援パネルの実用的な活用について検討し、計画的な運用を行う。 職員のニーズに合わせた研修会を実施する。 業務内容と担当の明確化を行い、機器管理体制の強化や専門性向上を図る。 高等部でタブレット端末の使用法を検証する。特に Metamoji Classroom やおすすめアプリの活用方法について共有する機会を増やす。 	

【健康安全部】令和7年度 自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。 	
評価する領域・分野	保健管理、衛生管理、健康教育、保健指導、給食指導	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関と常に連携を図り、児童生徒の健康管理に気を配っていることに概ね保護者の理解を得ている。 児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応について、保護者の協力及び理解を概ね得ている。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が健康状態を自ら把握し、自身の心や体を大切にできる保健・食育・体育指導の充実を図る。 保護者等や医療機関、教職員の連携を密にした、保健指導及び医療的ケアを実施する。 感染症対策を含めた衛生管理と指導を通して、安心安全な環境を整える。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア検討委員会、学校給食委員会、学校保健安全委員会等の各種委員会 給食アレルギー検討会、校外学習等事前検討会、看護師カンファレンス等の担当者会 	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関する授業の実施と掲示物、Teams、すぐーるを活用した情報発信。 外部機関とのカンファレンスや主治医との連携。保護者と教職員間で連携したアレルギー管理。 校内環境を定期的にチェックする体制を整える。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 各担当からの評価と反省（分掌内） 保健指導の実施記録、食に関するアンケート、訓練等の反省（職員） 学校評価アンケート（保護者、生徒） 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 保健室と連携した保健指導、外部講師を招いた授業を実施した。 感染症予防についての掲示物やすぐーるでの情報提供を行った。 医療機関、市との連携会議、主治医訪問を実施した。 調理実習や校外学習でのアレルギー管理を強化した。 サーキュレーター等の教室物品、トイレの生理用品、AED等の管理担当を決め、定期的な校内環境の確認と維持を行った。 	
評価の視点		評価
①児童生徒が発達段階に応じて健康状態や生活習慣を理解し、必要な支援を受けながら心身を大切にする行動ができたか		A (B) C D
②保護者・医療機関・教職員との連携を通じて、保健指導や医療的ケアを安全かつ円滑に実施できたか		(A) B C D
③感染症対策を含む衛生管理が計画的に実施され、安心安全な環境を維持できたか		A (B) C D
④情報発信（掲示物、Teams、すぐーる）や研修を通じて、職員・保護者の理解と協力を得られたか		(A) B C D
成果・課題		総合評価
○医療的ケアや校外行事の事前検討、アレルギー対応など、関係者間の連携をもとに安全管理を推進できた。 ▲情報発信ツールの活用により、保護者・職員への周知の機会が増えた一方、重要情報の「確認」まで担保する仕組みづくりが課題である。 ▲健康教育・衛生習慣は、児童生徒の実態に応じた段階的指導と家庭とつながる取組を強化する必要がある。		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階や個別実態に応じた健康教育の充実と教材の共有化を進める。 医療的ケア、アレルギー、感染症対策などにおける連携と情報共有の質を高め、衛生管理や学校環境の点検・改善を継続的に行う。 発信した情報が確実に共有・確認される仕組みを整え、保護者・教職員との連携をさらに強固にする。 	

【防災環境部】令和7年度 自己評価

学校教育目標	自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。	
評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> ・防災（防災教育、防災対策、緊急時連絡等） ・環境整備（施設管理、校内美化、駐車場管理等） 	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・非常変災時の対応等、保護者への周知を丁寧に行う。 ・地域、保護者との連携を強化に努め、防災体制の充実を図る。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・『命を守る訓練』をはじめとした防災教育に関する取り組みの充実を図る。 ・危機管理マニュアルの検証と実効性のある体制構築を進める。 ・地域住民及び保護者等との連携を通して、校内における防災体制の充実と地域に貢献できる防災体制の構築を図る。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・防災環境部（分掌会） ・防災対策組織 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各種訓練の適切な実施と課題をもとにした危機管理マニュアルの検証 ・安全点検、校内清掃の適切な実施と修理修繕の組織的な連携 ・行政及びPTA等との連携と計画的な取り組み 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・『命を守る訓練』等を児童生徒の実態毎の課題を加味した実施を計画し、有事に対応できる実施となっているか。 ・訓練での課題をもとに『危機管理マニュアル』の修正を必要に応じてできたか。 ・安全点検及び校内清掃の適切な実施と施設管理に努めることができたか。 ・美濃加茂市やPTA等との連携を密にした計画、実施ができたか。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・『命を守る訓練』『非常変災時対応訓練』の計画的な実施 ・訓練での課題に対応した『危機管理マニュアル』の見直し。 ・『危機管理マニュアル』の不足項目の追記及び整理。 ・安全点検のデータ化と修理修繕に関わる組織連携。 ・福祉避難所開設に関わる行政との連携の確認。 	
評価の視点		評価
①計画的な訓練の実施と防災教育の適切な実施がなされたか。		A (B) C D
②有事に対応できる組織体制、計画、マニュアルへの修正がなされたか。		A (B) C D
③適切な安全点検、校内美化（清掃）、施設管理がなされたか。		A (B) C D
成果・課題		総合評価
<p>○計画的な訓練の実施をおして課題を明確にし、より適切な安全確認、避難掌握へと修正できた。また、改善を加味した実施へつなげることができた。</p> <p>○安全点検の結果を集約し、事務部との連携の中で、適切な状況の把握と修繕につなげることができた。</p> <p>▲マニュアルの周知、個々の知識の蓄積の機会の提案が課題。また、有事に備え当事者意識の向上と有効的な防災教育の実施が課題。</p> <p>▲環境整備、清掃等教職員の協力を得る。</p>		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA、地域自治体行政との連携強化と防災の取り組みの計画を進める。 ・有事を想定した具体的な訓練の実施と課題に対応したマニュアルの検証、修正を進める。 ・各業務内容の精査と学校組織が連携した業務の改善に取り組む。 	

【進路指導部】令和7年度 自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。 	
評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習（産業現場における実習、作業学習） 進路指導（進路指導計画、事業所合同説明会、関係諸機関連携、追指導） 進路研修（進路研修、進路ガイダンス） 	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 学校は、進路に関する連絡や情報提供を児童生徒や保護者に向けて適切に行っている。（※福祉サービス事業所説明会、進路指導室の解放等を実施） 進路に関する連絡や情報をわかりやすく伝えている。 進路指導において関係諸機関との連携をきめ細かく行っている。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会のニーズや変化に応じた職業教育や就労支援体制の充実を図り、発達段階に応じた生活能力と職業能力を育成する。 就労及び進学に関する情報発信と保護者への啓発、外部機関との連携を強化し、早期からの一貫した進路指導を展開する。 進路に関する職員研修を推進し、児童生徒の希望や社会のニーズに合った進路指導に努める。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 各行事における他分掌との連携 高等特別支援学校機能校内検討委員会及び作業チーフ会 学校アンケート結果の分析 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 産業現場での働く体験及び卒業後の進路先を見据えた現場実習の実施 就労選択支援事業関係諸機関との連携 保護者への進路説明会、個別進路懇談の実施 障がい福祉サービス事業所説明会、障がい者雇用促進研修会の実施 高等特別支援学校機能校内検討委員会の実施 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の夢や希望に沿った進路決定、進路実現 各事業（進路懇談会、事業所説明会等）のアンケートを基にした意見と評価 各業務における反省と評価 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習の成果確認、アビリンピック競技大会初参加（喫茶・ワード） 進路選択、進路実現に向けた定期的な進路情報の発信。進路の手引きの実用。 高等特支機能検討委員会において方向性の確認、成果と課題の洗い出し。 実習での評価を丁寧にフィードバック（進路懇談）。 福祉事業所サービス説明会や障がい者雇用促進研修会の実施。 	
評価の視点		評価
① 児童生徒の進路実現につながる実践的な学びの充実が図れたか。		Ⓐ B C D
② 情報提供・進路指導・支援体制の充実と分かりやすさを提供できたか。		A Ⓑ C D
③ 関係機関・校内組織との連携による進路指導の組織的推進できたか。		A Ⓑ C D
成果・課題		総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○作業製品販売機会の増加や企業連携による作業学習、現場実習・インターンシップを通じ、生徒の自己理解・勤労観・職業観の育成を図ることができた。 ○関係機関と早期から連携し、移行支援会議や就労手続きを円滑に進めることができ、進路決定の充実が図られた。（就労選択支援も同様） ○進路だよりや事業所合同説明会等を通じ、保護者および地域に対する進路情報の発信を継続することができた。 ▲就労選択支援制度に関する職員の理解や今後の運用の統一が不十分である。 ▲業務の属人化を防ぐための体制整備が必要である。 		A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 就労選択支援を含む進路指導制度について、制度趣旨と運用の共通理解を徹底し、持続可能な校内体制の構築を図る。 高等特別支援学校機能の検討・検証を継続するとともに、方向性を明確化した上で、体系的な全体計画を策定する。 関係機関との連携強化、継続的な進路情報の発信、進路相談室の設備整理。 	

【渉外部】 令和7年度 自己評価

学校教育目標	・自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。
評価する領域・分野	「組織運営」「保護者、地域との連携」「情報提供」
現状及びアンケートの結果分析等	・学校評価アンケートの結果、「学校は保護者と一体になってPTA活動を進めている」の項目で昨年度の86%を上回り、87.9%の理解を得ることができた。これは、ホームページやすぐーの活用で、保護者の目に留まる機会が増えた結果と推測される。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・役員にも無理のないPTA活動の在り方 ・募集をかけた「保護者ボランティア」の幅広い活用法の工夫 ・PTA活動、同窓会活動のホームページ掲載
重点目標を達成するための校内組織体制	・役員会前の事前打ち合わせや執行役員会での細やかな協議 ・担当職員、PTA各委員長との連携
目標の達成に必要な具体的取組	・学校祭でのPTA出し物に関する活動内容の決定 ・「保護者ボランティア」を活かしたPTA活動の中で積極的な取り込み方 ・当日の様子や感想を踏まえた役員（保護者）/担当職員による原稿作成
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・各会議（PTA執行役員会、分掌会）での反省、検討 ・実施者による「計画書」、参加者による「活動報告」の記録用紙の作成 ・PTA行事に参加をした保護者からのアンケート集計（紙面・Forms）
取組状況・実践内容等	・本部役員が、各自の得意とする範囲で役割分担をし、活動の指揮を執った。 ・PTA活動では、役員が無理のない範囲で新たな計画を練り広げ、イラスト募集/レクリエーション/映画上映会など、より多くの人を巻き込み、楽しみながら実行した。 ・保護者ボランティアを活用し、ベルマーク整理では多くの保護者の協力が得られた。 ・各部交流会では、特徴ある講師を招き、年代に合った情報を保護者に提供をすることができた。
評価の視点	評価
①PTA 役員を支え、各役員が主体的に動ける援助ができたか。	Ⓐ B C D
②保護者のニーズのもと、需要がある活動や、役員をはじめ、無理なく計画・実行することができたか。	A Ⓑ C D
③「保護者ボランティア」を、有効に活用することができたか。	A B Ⓒ D
④PTA 活動を積極的にホームページへ掲載し、保護者の理解・地域への発信ができたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
○積極的に行われた本部役員の話し合いや各委員長からの相談にのることで、学校側の情報提供をしたり場所を確保するなど、いつも寄り添う立場に徹底することができた。 ○新しい活動の計画には、話し合いを重ね、楽しみながらとても積極的に行うことができ、役員の負担も減らしていけるよう協議を重ねることができた。 ○PTA 活動の様子や同窓会からの内容を、ホームページに掲載することで、広く様子を知っていただくことができた。 ▲準備を進めるにあたり、行事の計画が重ならないように調整する必要がある。 ▲登録をした「保護者ボランティア」の活動内容を、確実に確保することができなかった。	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	・無理なくできるPTA活動の追求（役員内の分担・学級委員の負担軽減の工夫） ・「保護者ボランティア」の登録募集、活動の確保（PTA活動の中での取り入れ） ・本校のPTA活動の理解者を増やす（すぐー、ホームページの活用）

学校関係者評価 (令和8年2月20日実施)

意見・要望・評価等

- ・授業を見学すると、どの児童生徒も安心して取り組んでいる様子だった。職員の願いが伝わっている。業務量が大変多い中、職員が一丸となって取り組んでいて素晴らしい。
- ・生徒指導部のいじめ対応について、生徒から職員に相談できる関係性を評価したい。
- ・地域の学校も含め、生徒の進路に関わって早くからの丁寧な支援体制の必要性を感じている。充実させていってほしい。
- ・教材教具展は興味深く、ぜひ参考にしたい。外国籍の児童生徒への性教育の必要性からプログラムを準備しているので、必要があれば当校へも紹介したい。
- ・外国籍の児童生徒への対応として、翻訳アプリを使った通訳の研修等も行われており、世界的な流れとしてアプリを使う方向で考えていけるとよい。
- ・PTAと一緒にできることがあれば、声を掛けてほしい。PTAの学習会のテーマにもつなげることができる。
- ・毎月の安全点検で危険箇所を見付けた場合、すぐに直すのではなく生徒にどうして危険なのかを教えることも必要である。
- ・作業製品販売については、道の駅など販路開拓の可能性があるのでないか。